

被災者の心安らぐ場所を

災害時における入浴支援等
に関する協定 締結式



7月18日(金)に町と特定非営利活動法人Vネットは「災害時における入浴支援等に関する協定」を締結しました。この協定の締結により、災害発生時などに避難所が開設された際、同法人から入浴や洗濯に対する支援を受けられることとなりました。また、浸水被害発生時、浸水家屋などを乾燥させるための送風機も貸与していただけることとなりました。

同法人の川上哲也理事長は「災害発生時、お風呂はただ身体を洗う場所であるだけでなく、コミュニケーションの場となり、数少ない心安らぐ楽しみの場となります。これから被災者の精神的な支えとなれるよう、支援活動を全国的に広げていきたいです」と話しました。

盆踊りで地域のつながりを取り戻す



7月下旬から8月中旬にかけて町内各地区で夏祭りや盆踊り大会が開催されました。

7月25日(金)には養老公園養老の滝入口駐車場にて、第6回養老公園盆踊り大会が開催され、町内外から訪れた多くの人で賑わいました。養老をテーマとした仮装やコスプレをした参加者らが、養老おどり保存会と一緒に「養老音頭」や「ひょうたんブギ」などのご当地音頭や定番の音頭に合わせて、時間一杯踊りました。また、会場にはたくさんの屋台やキッチンカーも出店し、ちびっこ縁日の開催、パトカーや消防車の展示など、誰もが楽しめる笑顔あふれる熱い夜となりました。希薄化してしまった地域のつながりを取り戻す、世代や地域を超えた交流の場となりました。

交通事故のないまちを目指して



交通安全や地域防犯などの警察業務へ貢献した警察部外功労者に対し、その功績をたたえ、警察庁長官から贈られる最高位表彰である「警察協力章」を受章した安田正直さん(鷺巣)が、7月31日(木)に川地憲元町長を訪問し、その報告をしました。

安田さんが「事故のないまちにするため、中学生と連携したり、町特産品のひょうたんを取り入れるなど、自分なりに工夫し、町や警察、地域と協力して交通安全を啓発してきました」とこれまでの振り返ると、川地町長は「なにごととも長年続けることは、簡単なことではありません。交通安全をはじめとした、これまでの地域への尽力が認められたのだと思います」と功績をたたえました。

思いやり ゆずる心で 事故防止



夏の交通安全県民運動の初日である7月11日(金)を西濃地区「交通安全の日」として、自動車の往来の多い交差点や通学路などに警察官や各分会の交通安全協会の役員が立ち、運動の重点項目である子どもと高齢者の交通事故防止や自転車などの安全利用とヘルメット着用の促進などについて呼びかけました。

また、運動期間中に、町、養老警察署、養老地区交通安全協会が合同で、町内スーパーなどでの交通安全啓発や町内小学校における下校時の交通安全指導、名神高速道路養老SAでのシートベルトの全席着用や飲酒運転の根絶などの呼びかけを行うなど、町内全地区で交通安全の街頭啓発および広報活動を実施しました。